

3/19 岩手山のあとの秋田駒ヶ岳

(くもり晴)

メンバー 伊藤久美子、西川克之

前夜東京の石垣氏、針谷さんと別れた後、盛岡駅で夜を明かす。待合室はテレビでにぎわい、早くからは風もない。

田沢湖線の始発に乗るが、どうせリフトが動かないと、田沢湖駅で時間をつぶし2本あとのバスにする。高原温泉で下車、ここ田沢湖高原スキー場は人気がなく静寂の中にある。あいかわらずの曇天。強風と深雪に悩まされた前日の岩手山のくりがえしになりそうな気もしたが、ともかく出発する。

リフト終点の前方の林を突っきると1分たたずにバス道に出、次のカーブを曲がりきった所に555番の標識がある。この先、沢を渡るあたりまではバス道もわかるし、標識や赤糸もある。

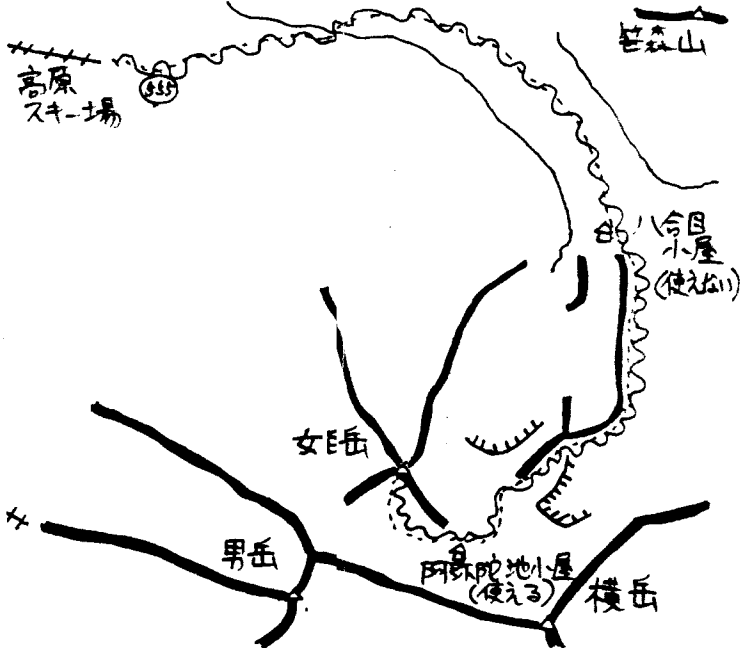
八合目小屋から左手の尾根にとりつく。最初は幅があり緩かだが、登るにつれ狭く急になり、両側の谷はU字状に落ちこんでいる。雪もクラストして硬く、登りきれるか不安になったあたりが尾根のピークで、少し下ると阿弥陀池の雪原に出た。この時ガスがきれしっかりと晴れる。前方にま新しいトレースがあり見上げると同志会にあらぬ大パーティーが頂上を目前にしている。果境の尾根を来たらしく、竹竿をベタ打ちしていた。雪のトンネルを造って出入りできる阿弥陀池小屋を探検した後、頂上を目指す。

急斜面だが一登りで着く。登った途端またガスがかかり楽しみにしていた大展望ははかなく消えてしまう。先行パーティーは20人近い。

休憩後、何も見えないうちを滑り始める。頂上直下は最も期待していた斜面なのだが、上部はクラストし、20人に先をこされたあとでは今一歩の感がある。阿弥陀池小屋からは来たときのトレースをさがして尾根に戻る。この尾根もあまり快適ではない。しかも来る時にはなごった雪上車の轍とスキーのシュプールがある。人合目からはたたらと滑ってゲレンデに出る。降りてからは噴水わたって駒ヶ岳はずっと見えていた。国民宿舎で入浴し、盛岡から最終の新幹線で帰京。
(西川記)

コースタイム

高原スキー場リフト終点 9:30 → 八合目小屋 10:30/10:50 → 阿弥陀池小屋 11:45/11:55 → 女目岳 12:10/12:45 → 八合目小屋 1:20/1:35 → リフト終点 1:55



3/31 天元台

2人づ1升

3/31 (小雨→霧) 天元台 → 西吾妻小屋
前夜発の津軽にて出発。小雨模様の米沢駅におり立つ。しばし仮眠の後天元台へ向う。小さなボンネットバスは今年も健在だ。スキー場は比較的すいていて、難なくオトリリフトの上に着着。何組かのツァーパーティに会う。晴れ間がのぞくかと思つたガスがかかり、覆めた天気では無い。西吾妻山手前の鞍部を自ずして緩やかに出る。凡天岩から西吾妻小屋に至る尾根上は広くてわかり難い。小屋にはだれも居ない。天気が回復しなので早々と夜の部を始める。

4/1 (ガス) 西吾妻小屋 → 若女平 → 白布岬
あいかわらずのガスのため若女平に下ることにする。緩やかなまぼらな木立の向はものすごいギャップでスキーに不向き。視界が悪いので指差標に従って下るが、尾根すじも同じようなもの。ガスが晴れた所で見上げると沢を下るのが正解だ。若女平の先はうっそうとした杉林と細い尾根でさらに悪い。要するにこのコースで50m以上滑れる所はめったに数ヶ所しかない。とにかく迷いながらも無事下山。その足で岬に行きでカンハイ。
(安達記)

メンバー: 安達, 川口
タイム:
(3/31) ロープウェイ上駅 9:00 リフト終点 9:25/9:40
西吾妻山手前の湿地 (1920m) 10:25/35 天狗岩の分岐 11:00 西吾妻小屋 11:20
(4/1) 西吾妻小屋 8:00 (1770m) 8:40/50 (1100m) 10:15/25 道路 10:50

840509

No.00100